



(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)

# 都市型エコミュージアムへようこそ！



ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業は、平成15年12月の事業検討開始以来、多くの市民ボランティアのみなさんとともに、「まち歩きガイド」「講座の開講」「企画展の開催」など、住まう茅ヶ崎を知ることができる、さまざまな活動を行ってきました。

年間4回発行しているこの「季刊誌」もおかげさまで記念すべき第25号！

「都市型エコミュージアム」の先駆的事例として市外からも評価をいただけるようになった、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の取り組みについて、改めてご紹介したいと思います！



▲写真：茅ヶ崎の秋巡り。(上段) 小出川の彼岸花、(下段左) 西久保のイネ、(下段右) 県立茅ヶ崎里山公園からの富士山  
ちがさき丸ごと博物館の刊行物等の美しい写真の多くは、茅ヶ崎の魅力を知る市民ボランティアさんが撮影したもの。  
「それぞれの得意分野や愛するものを生かして活動・活躍できること」は、ちがさき丸ごと博物館の大切な理念の一つです。

**ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何？** 茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、このまちらしさを持ついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれが持っている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれを関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、本市を改めて知り、本市を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかげがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくことになります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。こうした活動は「エコミュージアム」と呼ばれ、都市部で積極的に取り組んでいる茅ヶ崎の事例が各所から注目されています。



**ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って、  
どんな活動をしているの？**

多岐にわたるその活動の一部をご紹介します！

みんなで市内を巡って、学び合う！

## ちがさき丸ごと博物館 まち歩き

平成 17 年度から開講した「ちがさき丸ごと博物館ガイド養成講座」の修了生によって設立された「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会」を中心に、市内各地のコースを巡る「まち歩き」。

市民ボランティアは日頃学び、調査研究してきた成果をガイドで発信します。参加者から「私、昔この場所に住んでいたの」なんて声が上がれば、そこから新たな都市資源についてのお話が広がります。参加して興味を持った方が、次の回ではガイドになっているということもあります。わがまち茅ヶ崎をともに巡り、学び合う、ちがさき丸ごと博物館の代名詞的な企画です。

「南湖の文化人を巡る」「茅ヶ崎の大山道を歩く」「柳島の魅力を訪ねる」…など、さまざまな地域・テーマで開催しています。



住まう茅ヶ崎を1から知る！

## ちがさき丸ごと博物館

### 講座（基礎編）

考古学、文献史学、自然、民俗の視点から、約3か月間、総論的に住まう茅ヶ崎を学んでいく講座です。平成25年度からはじまり、平成27年度10月期で4シーズン目を迎えます。

「ずっと茅ヶ崎に暮らしてきたけれど、毎日の通勤や買い物に使う道以外、茅ヶ崎のことを知らない自分に気づいた」という動機で受講される方が多い人気の講座です。

基礎編を修了することで、各ジャンルの都市資源について、より専門的に学びたいときの下地づくりとなる内容を意識しています。まち歩き体験の機会もあります。

講座の運営には、会場の設営・撤収、資料配布等で市民ボランティアが積極的に関わり、茅ヶ崎を知る仲間づくりの「場」にもなっています。

普段なにげなく暮らす、  
まちの魅力を再発見するキャンペーン！

## ちがさき丸ごと博物館 企画展

一般的な博物館に企画展があるように、エコミュージアムでも一定の期間とテーマを設けて開催する企画展を開催しているのが、「茅ヶ崎流」。

まち歩きや講座はもちろん、伝統的な年中行事やお祭り、都市資源をつなぐスタンプラリーなど、市民が普段なにげなく暮らす茅ヶ崎のまちの魅力をすることができる活動を一体的に発信します。

市民ボランティアも得意な分野の講座の講師を務めたり、事業のコーディネートをしたり、大忙しとなります。

### ■過去3回の企画展

平成 24 年度（11/22～1/27）

企画展「つながるちがさき」

平成 25 年度（10/16～12/21）

企画展「つながるちがさき 2013」

平成 26 年度（11/21～2/28）

企画展「丸ごと 100

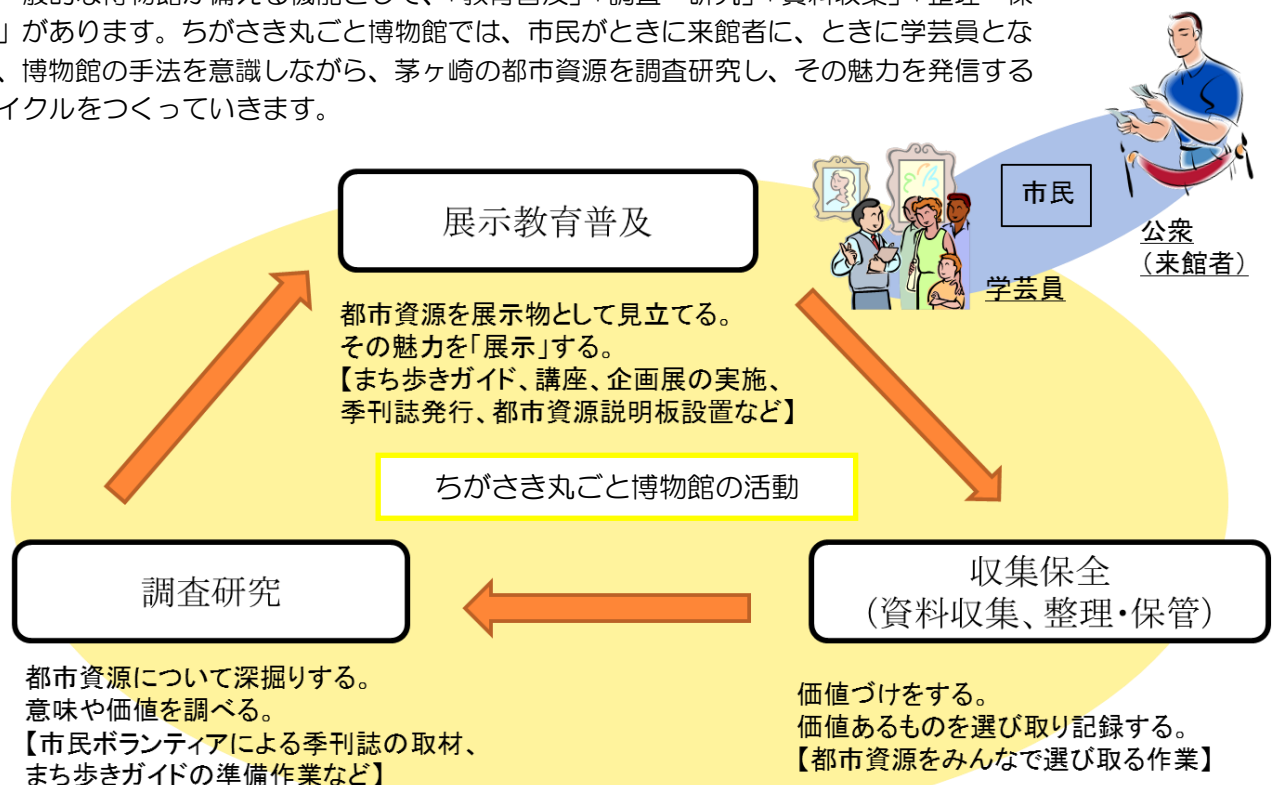
ー茅ヶ崎を知る 100 の機会ー展」



もっと  
知りたい！

## 「都市型エコミュージアム」の博物館的要素とは

一般的な博物館が備える機能として、「教育普及」「調査・研究」「資料収集」「整理・保管」があります。ちがさき丸ごと博物館では、市民がときに来館者に、ときに学芸員となり、博物館の手法を意識しながら、茅ヶ崎の都市資源を調査研究し、その魅力を発信するサイクルをつくっていきます。





# シンボルマークが目印！ 市内の都市資源説明板

屋根のない博物館であるちがさき丸ごと博物館は、文化財を中心に、茅ヶ崎の都市資源を紹介する説明板を市内各地に設置しています。ちがさき丸ごと博物館のシンボルマークが描いてある説明板を探しに、ぜひ市内を巡ってみたいはいかがでしょうか。「まちの宝もの」を再発見してみてください。



▲都市資源説明板の一例。市内各地にある都市資源の説明板は35基（平成27年10月1日現在）。まち全体を、屋根のない博物館と見立てるエコミュージアムでは、展示物となる資料は現地に存在します。それらをより多くの方に知っていただけるよう、毎年約3基の説明板設置を目指しています。

- (写真右上) 藤間家(近世商家)屋敷跡 ※市指定史跡 柳島2-6-30
- (写真左上) 馬頭観音(鶴嶺参道歴史ひろば前) 浜之郷字石原731-1
- (写真右下) 堤貝塚(十二天A遺跡) ※市指定史跡 堤字十二天1467-1
- (写真左下) 神明宮の庚申塔 ※県指定文化財 十間坂3-9-47

## 編集後記

この土地に住む人がこの土地のことを皆知っている、それぞれに自慢できる地域の宝物を知っている、そしてこの土地を訪れる人に教えたり案内したりしている。こんな光景が普通であり当たり前前の雰囲気をもった「わがまち」…豊かな茅ヶ崎…を目指して「ちがさき丸ごと博物館」は成長を続けています。初事業のガイド養成講座で誕生した「ちがさき丸ごと博物館の会」は市内外の求めに応じ、まち歩きガイドや講師などで日々活躍されています。その後の基礎講座に学んだ皆さんも博物館スタッフに加わり、例年の企画展に参画していただいています。興味の尽きない遠大な取り組み、市民と行政職員の真剣な連携が今も進んでいます。感慨深い今日この頃。